

# 2018 年全伯日本語学校生徒作品コンクール

## 書道講評

A 組	ゆ	一筆で続けて書くような気持ちで書く。力強さがあってとても良い。 ●筆をまっすぐに入れて体を使って書くように。
B 組	いぬ	文鎮の位置に注意。呼吸を整えて上下の文字の間を取ることが大切。 ●書道は呼吸法である。
C 組	人口	中心がずれないように下敷きに線があってもいいし、 ●半紙を折ってもよい。
D 組	笑顔	課題が大変難しかったようですが、 ●お手本を良く見て慎重になれたと思う。集中力が大切だ。
E 組	前一 進歩	しんによろが難しかったようだ。練習を重ねること。 ●名前は余白に入れるほうが良い。全体的に大きめに書くこと
初歩 組	伝	一筆一筆丁寧に書いてあった。バランスにも気をつけて書くこと。

### 全体の講評

子供たちの一生懸命書いている姿が、みえるようすばらしかったです。

子供らしく元気のいい作品からエネルギーをもらえるようで大変良かったです。

又授業ではなかなか書道の時間など取れず練習不足の点もあると思いますが 短い時間の中でも集中力を切らさず取り組めるよう、ご指導ください。

# 硬筆講評

A組	上手に元気よく書かれていました。四角のわくにぎりぎりに書かないようにご指導ください。クセ字を直して練習してください。
B組	元気よく書かれていました。ひらがなと漢字のとめ、はらいに注意して練習してください。「学校」のバランスが難しかったようです。
C組	のびのびと書かれていました。カタカナの「シ」と「ン」の打ち込みをしないようにご指導ください。文字のとめ、はらいに気をつけて練習してください。
D組	頑張って書かれていました。漢字が多くてかなりバランスとるのが難しかったようです。「発」のはつがしらに注意してご指導ください。
E組	上手に書かれていました。「賞」のかんむりの「ッ」ではありませんので注意してご指導ください。ひらがなは漢字よりやや小さめに書く練習をしてください。
初歩組	のびのびときれいに書かれていました。「、」が多くてバランスとるのが難しかったようです。

## 全体の講評

- ・担当の教師は要項をよく読んでください。審査規定が守られなかったりしています。
- ・なぞり書き（二度書き）、消しゴムを使った作品が数点ありました。
- ・鉛筆の芯の濃さがうすい作品が数点ありました。
- ・名前の書き方や位置がかなり上手になっています。行の上から間を置いて中心に書いてください。A組も名字を書きます。審査の対象になります。
- ・教師または監督の方は、よく課題見本を見て注意ご指導願います。
- ・漢字とかなの大きさを整えることと、生徒のクセ字を直すようご指導願います。
- ・出品の課題と組が間違っ来ているのがありました。最終確認してください。

\*年々と硬筆の作品が減少しています。全体的に授業時間が少ない中でもよく練習されていると思います。日ごろの練習が大切です。字を書くことに集中して注意して書くことの良さを指導ください。

# 作文講評

A・ B組	<p>全体的に丁寧な作品が多かったです。文は素直な感想がよく書けていました。絵は細部をよく観察して描けていました。できるだけ漢字を使ったり、きれいな字で詳しく書こうとしていたりして、頑張っている様子が伝わりました。起承転結の「結」、特に最後のところをもっと考えて、工夫して書くとさらに良くなると思います。それにしても、参加者が少なく残念でした。普段から日記を書いたり、簡単なお話を作ったりして、文章を書くことに慣れて、来年はもっとたくさんの人に参加してほしいです。</p>
C組	<p>身近にいる移住者にお話を聞いて、昔と今の生活を比べてよく書けていました。しかし、たくさんのお話について少しずつ書いた人が多かったです。ひとつのことについて、深く詳しく掘り下げて質問し、自分の考えを具体的に書くと読んでいる人がおもしろいと思える作文になると思います。同じ人なのに「祖母」と書いたり「おばあちゃん」と書いたりすると、読む人に誤解を与えてしまうので、名称を統一することも大切なことです。書き終わってから、自分で何度も読んでください。他の人が読んで分かるかを考えながら、わかりにくい表現を直したり、詳しく書いたり、今書ける最高の作文を書くことに挑戦してほしいと思いました。</p>
D組	<p>きちんこのテーマを理解して、よく考えて書いている人が少なかったです。「移民するとしたら」というテーマを「ブラジルや日本の生活」という自分の書きたいテーマにすり変えて書いてしまっている人がたくさんいました。歴史、地理、気候、生活様式、時間の感覚など、今の自分の生活に何がどのように関係しているのか、ゆっくり考えましたか。日本語力も作文力もあるのに、「いろいろ」「たくさん」「すごい」等の表現で終わってしまい、具体的な説明がないので、読み手にはっきりとイメージが伝わりません。細かいことまで見つめて、読んでくれる人によくわかるように書いてください。来年はもっともっと様々な角度から見て、考えて、自分の言葉で作文を書いてほしいです。</p>
E組	<p>「テーマを理解し、それにあつた内容で、自分の思ったことを正しい文で表現して題も自分で決めること。原稿用紙を正しく使い、規定の枚数で書くこと。」を意識して文を書いた人が何人いるのだろうか疑問に思いました。また、「移民が果たした役割とこれから」という観点がないものが多く、移民がブラジル社会にどう影響しているのか、掘り下げて考察したり、未来を予測したり、想像したりして作文を書いたとは思えない作文が多かったです。年齢も経験もあるこのE組の人には、調べたり、読み直したり、じっくり考えたりして、自分の力で「いい作文」に仕上げる努力をしてほしいです。読み手がわくわくしながらあなたの世界にぐいぐい引き込まれてしまうような作文を書いてください。普段から、頭の中にあるイメージや映像を詳しく自分の「言葉」で伝える練習をしてはどうでしょうか。</p>

## 初歩組

それぞれが自分の力以上のものを書こうと努力して、一生懸命書いた様子が伝わってきました。成人の方の応募もあり、経験から考察されたすばらしい内容の作文がありました。ただ、全体的に「住みたいところ」と「今住んでいるところ」を具体的に詳しく比較して書けている人が少なかったです。「住みたいところ」への憧れを書くことはいいのですが、言葉に説得力がありません。具体性やそう思う根拠や背景が全くわかりません。「良い文化」はどうしていいと思ったのか、どんなところがいいのか、読み手にその良さが伝わってきません。身近な例や自分の生活とつながることを少しでもいいので書いてください。また、読み手が混乱しないように、原稿用紙を正しく使ってください。「。」をつける位置や「」はどのように原稿用紙に書くのかなど、きちんと決まりを守ってください。

## 全体の講評

まず、作品コンクールでは何が採点されるのか、生徒も先生方もきちんと募集要項をよく読んで、理解して参加してほしいと思いました。高学年の生徒なら、自分で もっと考えて応募するように指導してください。作文の場合は必ず「原稿用紙の使い方」が採点基準に入るので、この機会に正しい原稿用紙の使い方を身につけて、将来に活かせるようにしてほしいです。

「移民」に関するテーマは難しかったのかもしれませんが、それでも、ブラジルという移民国家で暮らす生徒が、毎日の生活の中にある身近で小さな「移民」に関することをみつけて考えて、時には調べて深く考えて、「作文を書く」ということをもっと先生方や保護者の方に応援していただきたかったです。自分とはかけ離れたことをただ表面的に書き連ねるのではなく、生活の中で自分の心が動いた「何か」を具体的に深く掘り下げて書いた作文はとてもおもしろく、すばらしいものです。来年は単に「日本語で作文を書く」のではなく、さらに「自分の心の動きや興味を持ったものなどを見つめて、深く考えながら書く」練習だと思って参加してほしいです。

きびしいことを書きましたが、作品コンクールに応募したことは必ず何らかのプラスになります。応募して下さった方々に盛大な拍手を送りたいです。また来年も参加して、その成長を見せてください。応募していない人は、来年はがんばって応募してみてください。本をたくさん読んだり、友達や家族や先生と意見を交換したりして、自分の考え方、感じ方をみつけ、みつめ、その結果を作文という形で残せたらいいのではないのでしょうか。

.....

# 絵画講評

A, B組	のびのびと楽しく描けていた。特に3～4歳児がすばらしかった。ありのまま で楽しい表現が多かった。
C組	行ってみたいというテーマは少し難しかったかも。写真を見て描いたというふ うな作品が多かった。
D組	レベルが全体的に高く良い作品が多かった。
E組	全体的にレベルが低く感じられた。漫画的なものが多かった。

## 全体の講評

色鉛筆はクレヨンよりインパクトが弱いので今年是要綱からはずしたのだが結構色鉛筆を使った作品があった。

審査員の間ではテーマをいっそのこと全部自由にしたらとか、学校での暮らし出来事などはどうかということも話し合われた。

今回も規格外の画用紙（大きい、薄い）を使用した学校があった。

月刊誌「灯台 2018年5月号」より

子供たちは大人からのプレッシャーを大人が考えている以上に強く感じています。そのプレッシャーから解き放って、自由に表現する喜びをたくさん経験させることで子供たちは自分の能力を伸ばしていくことができるのです。（和久洋三 おもちゃデザイナー）

大人の尺度で意見を言ったり、絵を直したりしないで子供が表現する “ありのまま” を認めてあげましょう。（辻政博 帝京大教育学部准教授）

.....

# まんが・イラスト講評

A組	モノトーンの作品があったが、彩色した方がより好ましい。 描線には濃い鉛筆を使用して欲しかった。 キャラクター作品は、楽しんで描かれた作品が多く見られた。
B組	年齢は低いが最優秀賞を差し上げたいくらいレベルの高い作品があった。 マンガのセリフにも工夫が見られ、マンガは日本語学習に適していると実感させられた。 キャラクターの独自性にも目を見張るものが有った。
C組	見ごたえのある作品が多く、入賞者を選ぶのに苦労した。 キャラクターのコメントは来年から先生ではなく、自分で書くように指導したい。 コメントの日本語も審査の対象としたい。字が下手でも文章が拙くても、自分で書くことが大切であると強調したい。 ありきたりな日本語ではなく、チャレンジ精神のある作品を選ばせて頂いた。
D組	金賞のマンガ作品、オリジナリティ、絵、セリフ、全て素晴らしかった。昔話などを勉強している様子がうかがえる。勉強した事をこうやって展開して自分の作品にできるという点が素晴らしいと思う。ユーモアがあり、読んで、見て、楽しい作品だった。 キャラクターの作品では、せっかく絵が良いのに、コメントが一行しか書かれていないものなど残念だった。コメントも大切。
E組	丁寧に描かれた作品が多かった。 マンガのセリフに日本語の間違いが多少見られたが、難易度の高い日本語を使う事に挑戦しようという姿勢の見える作品を敢て選ばせて頂いた。 キャラクターのイラストの「背景」は、あってもなくても良いが、作品が効果的に見える事が大切、と考えて頂きたい。

## 全体の講評

昨年より全体のレベルが上がっている。

こぢんまり、優等生的にまとめている作品よりも、日本語、絵とも、より難しいものに挑戦している作品に好ましいものがあった。もっともっとチャレンジ精神のある作品を期待したい。どこかで見たような絵ではなく、独自のオリジナリティのあるものを、より評価したい。

まんが、イラストが、今の子供達にとって大変有効な日本語学習のきっかけであることを改めて感じさせて頂いた。応募数も増えて、来年の作品も大いに期待できると思われた。

## 2018 年全伯日本語学校生徒作品コンクール

実行委員会:

- ・伊藤 万理子
- ・藤田 セレステ 美恵
- ・沼田 準子
- ・花房 葉子
- ・ノゲイラ亜也



*Centro Brasileiro de Língua Japonesa*  
ブラジル日本語センター